

平成30年5月1日(火)



つつじが丘小学校
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



いのち
生命を感じると、元気になる

校長 上田 祥市

風薫る五月、爽やかな風が光を浴びて瑞々しく広がる若葉の香りを運んでくれます。学校の周りには、赤紫やピンク色のツツジが次々と花を咲かせ、校歌にもある「街を飾るつつじ」の季節が始まります。

先日の朝、学校の周りを見回りしているときに、登校している姉妹に会いました。「もう急がないと、遅刻してしまうよ。」と声をかけると、お姉さんの子が、妹の手を引いて急がせます。学校に着いて話を聞くと、「だって、〇〇が途中でダンゴムシを捕まえて、手の中一杯にダンゴムシがいるんだよ。」と話してくれました。私は思わず笑ってしまいました。「そうだね。今ダンゴムシがいっぱいいるから、捕まえたくなっちゃうよね。」

私の子供時代は、よく外で遊びました。缶蹴りのオニになり木の幹に手を当てて数を数えた時の木の肌を感じや、裸足になって泥んこ遊びをした土の感じ、ウサギやニワトリ、犬や猫を抱っこした時の温もりや、けんかした後仲直りして交わした握手から伝わる温かさ等々、私たちは、遊びの中でたくさんの命を感じてきました。大地とつながり、大空とつながり、お互いの命がつながる体験を自然にしていたのだと思います。現代は、多くの人工物に囲まれて生きています。子供たちは、生きているものに触れることが少なくなって、命を感じることができなくなっているのかもしれませんが。ゲームの中の実感のないバーチャルの命を本物と錯覚してしまうこともあるようです。

勉強や仕事に追われ、目の前のことをこなす毎日が続くと、心に余裕がなくなり、足元に咲いている花の美しさや耳に心地よい小鳥のさえずりにも気付くことがなくなります。「忙しい」の『忙』という字は、心が亡くなると書きます。自分の中だけでしかものが見えなくなると、周りの命との交流がなくなり、心が小さくなってしまい、前向きに物事を考えるにくなるのかもしれない。

毎日通う同じ道でも、日に日に青葉を伸ばしている木々があり、土にはダンゴムシやミミズが動き回っています。まさに命が躍動する力溢れる時期に、一緒に命の交流をしないなんてもったいない。一瞬立ち止まって腰を下ろし、花を眺めていると、自然に顔がほころび、元気が沸き上がってきます。命ある自然を感じることで、人のエネルギー「気」も上がっていきます。



いよいよゴールデンウィーク、大人も子供もすこしゆったりとした気持ちで、自然の中で命の交流をするいい機会です。この地球という星で生きる命として、自然の中に私たちも生きているということを忘れないようにしましょう。

